

多世代による
地域資源のつなぎなおしと
文化多様性、
-SDGsの実現に向けて-

In
京都

持続可能な多世代共創社会のデザイン

多世代共創という方法論は
持続可能な社会の実現に有効なのではないか？

平成26年度～平成31年度(予定)

2018年3月2日 (シンポジウム)

大守 隆 (領域総括)

1. 多世代共創とは？

(1) 単なる交流ではなく共創

しかし、交流の上に共創が生まれることも事実

(2) 「してあげる世代」と「してもらう世代」ではなく、多世代が「共に」、「創る」。

(3) 「創る」のは健康、幸福、「折れにくさ」などの価値でも十分。ただし実証が重要。

16個のプロジェクトを実施（うち6つは終了または最終段階）

2. 何がわかってきたか？ 多世代の活動は・・・

- (1) 高齢者に**元気と活躍**の場を、若者に**やる気**を与える。
- (2) 地域コミュニティにおける**互助**の基盤になる。
- (3) **伝統産業**の再生や**継承**の基盤になる。
- (4) 人々に「**歴史の流れの中での自分**」を意識する機会を与える。
地域の歴史と自然に思いをはせ、子孫に思いをいたす。
- (5) **縦割り社会**の弊害を補完する。
「ムラに所属する前の世代」と「ムラを卒業した世代」
- (6) 人々を**巻き込む力**を持ち活動の**持続性**を高める。
「多世代で進めたいので参加していただけますか？」
- (7) 子供の持つ「**癒す力**」を多くの人に及ぼす。
アニマルセラピーやロボットセラピーを上回る効果？

3. 今日のシンポジウム

(1) . **地域の諸資源**の間に昔あったつながりが弱まった。

(自然、農作物、伝統産業、歴史、祭り、絆・・・)

⇒現代の**技術** (ICT、バイオ、新エネ、新素材等) や

需要動向 (海外観光客の増加、コト消費化等)

などを勘案しつつ、意義や可能性を再発見し

新しいつながりを多世代で作れるのではないか？

⇒ **文化多様性の増進、地域経済の自立、地域への愛着。**

(2) . 関連の深いPJからの進捗報告に加え

パネルディスカッションやポスターセッションも。

忌憚ないご意見をいただきたい。

⇒ **新しい気づき**や**新しいつながり**。